

救命救急センターにおける妊婦死亡の実態調査

佐藤和雄・正岡直樹

昨年度の本会議において、妊産婦死亡の実態を把握するにあたっては、産婦人科医療施設のみならず救命救急センター等の医療機関においても調査すべきではとの問題提起をした。すなわち、自宅、診療所で異常の発生をみ、心肺停止（CPA）など極めて重症のものが救命救急センターへ搬送され、産婦人科医が関わることなく死亡してしまう症例の存在が示唆されたわけである。そこで今回、厚生省健康政策局指導課に登録されている全国128救命救急センター施設（添付資料参照）にアンケートを送付し、過去10年間の妊産婦死亡に関する調査を依頼し、その報告例において検討を加えた。送付したアンケートは分担研究者より配布された妊産婦死亡要約表を用いるとともに、第9回修正国際疾病分類（ICD-9）の定義および勧告を同封し救命救急センター勤務の他科の先生方の妊産婦死亡への理解を図った。

128施設中90施設（70.3%）より返答を頂き、以下のごとくの集計結果となった。

①90施設中、過去10年間に妊産婦死亡“無し”とした施設が46施設（51.1%）、妊産婦死亡“有り”とした施設が44施設（48.9%）であった。また、“無し”とした施設中にも、12年前に急性妊娠脂肪肝による死亡例ありという施設が1施設、ニアミス例（子宮破裂、脳出血、肺水腫、弛緩出血、子宮外妊娠、子癇、HELLPなど）はあったとするものが3施設認められた。一方、産科救急はすべて産婦人科に依頼しており救命救急センターでは管理しないとコメントした施設は7施設あった。

②44施設より報告された妊産婦死亡は計88症例であり、1症例24施設、2症例9施設、3症例5施設、4症例2施設、5症例2施設、6症例1施設、7症例1施設であった。

③88例の死因別分類

羊水栓塞	16例(分娩中 8例、分娩後 8例)
産後出血	14例

弛緩出血	8例
子宮破裂	3例
頸管裂傷	2例
不明	1例
帝切後肺塞栓	9例
妊娠中毒症	10例 (子癇 5例、HELLP 4例、肺水腫 1例)
脳血管異常	5例 (AVM 4例、Moya Moya病 1例)
常位胎盤早期剥離	6例
敗血症性ショック	4例
劇症肝炎	6例
急性心不全	3例
前置胎盤	2例
解離性大動脈瘤破裂	2例
子宮外妊娠	2例
原発性肺高血圧症	1例
肺結核による咯血	1例
てんかん発作	1例
喘息発作	1例
脳静脈洞血栓症	1例
誤飲性肺炎	1例
原因不明	3例 (2例はトイレにて分娩、その場でCPAの状態で見)

④産後出血の1例、前置胎盤の1例、常位胎盤早期剥離の1例、妊娠中毒症の1例、脳血管異常の3例、急性心不全の2例、敗血症性ショックの2例、劇症肝炎の2例、トイレで発見された2例、肺結核咯血の1例、解離性大動脈瘤の破裂の1例、喘息発作の1例、てんかん発作の1例はすべて自宅で発症し、センターに搬送されており、また常位胎盤早期剥離の1例は助産所で発症している。

⑤以上より

#過去10年間の比較的長期間の集計ではあるものの約50%の救命救急センターが妊産婦

死亡を扱っており、妊産婦死亡の実態の把握にあたっては、看過できないものと考えられた。

自宅、路上など医療機関以外で発症しCPAを含め意識障害を伴った症例は救命救急センターへ直接搬送される可能性が高い。

また診療所などで発症したものにおいても羊水栓塞、脳血管異常などの合併症によりCPAの状態となっている場合は、救命救急センターへの搬送が考慮される。すなわちそこで死亡した場合は、センター担当医の妊娠現象への理解不十分なことにより、正確な妊産婦死亡統計の把握の妨げとなっている可能性が示唆された。

帝王切開後の肺塞栓の報告が多く、近年の帝王切率の上昇に警鐘を鳴らすものと考えられ、さらに肥満妊婦の術後管理などの啓蒙も必要である。

都道府県	施設名
北海道	旭川赤十字病院
	国立札幌病院
	市立函館病院
	市立釧路総合病院
	総合病院北見赤十字病院
札幌市	札幌市立病院
	古川市立病院救急医療センター
秋田	秋田赤十字病院
山形	山形県立中央病院
福島	いわき市立総合磐城共立病院
	財団法人太田総合病院
	総合会津中央病院
茨城	国立水戸病院
	筑波メディカルセンター病院
	総合病院土浦協同病院
栃木	栃木県救急救命センター

都道府県	施設名
群馬	国立高崎病院
埼玉	大宮赤十字病院
	埼玉医科大学総合医療センター
	深谷赤十字病院
	防衛医科大学校病院
千葉	川口市立医療センター
	千葉県救急医療センター
	総合病院国保旭中央病院
	国保直営総合病院君津中央病院
	亀田総合病院
	国保松戸市立病院
	成田赤十字病院
船橋市立医療センター	
東京	日本医科大学附属病院
	国立東京第二病院
	東邦大学医学部附属大森病院
	杏林大学医学部附属病院
	都立広尾病院
	東京医科大学八王子医療センター
	武蔵野赤十字病院
	帝京大学医学部附属病院
	日本医科大学多摩永山病院
	都立墨東病院
東京女子医科大学病院	
神奈川	都立府中病院
	駿河台日本大学病院
	日本大学医学部附属板橋病院
	公立昭和病院
	聖マリアンナ医科大学病院
	国立横浜病院
	北里大学病院
東海大学医学部附属病院	
新潟	昭和大学藤が丘病院
	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院
	横浜市立大学医学部附属病院
	長岡赤十字病院
富山	新沼市民病院
	富山県立中央病院
石川	石川県立中央病院

都道府県	施設名
福井	福井県立病院
山梨	山梨県立中央病院
長野	昭和伊南総合病院
	長野赤十字病院
	佐久総合病院
岐阜	県立岐阜病院
	県立多治見病院
	総合病院高山赤十字病院
	大垣市民病院
静岡	静岡済生会総合病院
	順天堂大学付属順天堂伊豆長岡病院
	県西部浜松医療センター
	静岡赤十字病院
愛知	名古屋掖済会病院
	国立名古屋病院
	愛知医科大学付属病院
	藤田学園保健衛生大学病院
	市立岡崎病院
	豊橋市民病院
	名古屋第二赤十字病院
	小牧市民病院
三重	山田赤十字病院
	三重県立総合医療センター
滋賀	大津赤十字病院
	長浜赤十字病院
京都	京都第二赤十字病院
	国立京都病院
大阪	大阪府立病院
	関西医科大学病院
	大阪府立千里救命救急センター
	国立大阪病院
	近畿大学医学部付属病院
	大阪府三島救命救急センター
	大阪府総合医療センター

都道府県	施設名
大阪	大阪府立泉州救命救急センター
兵庫	神戸市立中央市民病院
	兵庫医科大学病院
	県立姫路循環器病センター公立豊岡病院
奈良	県立奈良病院
和歌山	和歌山赤十字病院
鳥取	鳥取県立中央病院
島根	島根県立中央病院
岡山	川崎医科大学付属病院
	岡山赤十字病院
広島	社会保険広島市民病院
	国立呉病院
山口	国立岩国病院
	山口県立中央病院
徳島	徳島県立中央病院
香川	香川県立中央病院
愛媛	愛媛県立中央病院
	愛媛県立新居浜病院
	市立宇和島病院
高知	高知赤十字病院
福岡	北九州市立八幡病院
	済生会福岡総合病院
	久留米大学病院
	飯塚病院
	福岡大学病院
佐賀	佐賀県立病院好生館
長崎	国立長崎中央病院
熊本	熊本赤十字病院
大分	大分市医師会立アルメイダ病院
宮崎	県立宮崎病院
鹿児島	鹿児島市立病院
沖縄	沖縄県立中部病院
福岡	医療法人北九州総合病院
東京	国立病院東京災害医療センター



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昨年度の本会議において、妊産婦死亡の実態を把握するにあたっては、産婦人科医療施設のみならず救命救急センター等の医療機関においても調査すべきではとの問題提起をした。すなわち、自宅、診療所で異常の発生をみ、心肺停止(CPA)など極めて重症のものが救命救急センターへ搬送され、産婦人科医が関わることなく死亡してしまう症例の存在が示唆されたわけである。そこで今回、厚生省健康政策局指導課に登録されている全国128救命救急センター施設(添付資料参照)にアンケートを送付し、過去10年間の妊産婦死亡に関する調査を依頼し、その報告例において検討を加えた。送付したアンケートは分担研究者より配布された妊産婦死亡要約表を用いるとともに、第9回修正国際疾病分類(ICD-9)の定義および勧告を同封し救命救急センター勤務の他科の先生方の妊産婦死亡への理解を図った。